

平成21年5月26日

各位

長期使用住宅部材標準化推進協議会
平成20年度事業内容(概要)について

長期使用住宅部材標準化推進協議会
会長 久保田 芳郎

長期使用住宅部材標準化推進協議会は、住宅を長期にわたって使用していくための住宅部材の標準化・共通化を推進する目的で、平成20年7月1日スタートし、本年5月11日の定時総会において平成20年度の事業報告と平成21年度の事業計画について決定した。

その内容を集約すると、平成20年度の協議会活動においては、事業目的を確認・理解し、共通化・標準化の対象範囲、対象部材の選定基準等を定め、各組織の役割等を明確化するため、「長期使用住宅部材標準化・共通化ガイドライン」を制定した。また、住宅設備及び住宅部材の調査を行い、標準(共通)化の実態を把握した。加えて、会員住宅メーカーのメンテナンス、リフォーム担当にアンケート調査を実施し、交換・修理の頻度が高いもの、困った経験の多いものを割り出し、今後の検討すべき部品・部材として7品目を選定した。そして、64種類の組合せが存在していた住宅サッシのクレセント寸法組合せについて、会員住宅メーカーが使用するクレセントを4つの組合せに絞り込みを行った。

平成21年度の事業計画としては、平成20年度に選定された品目についてWGを立ち上げ、検討を始める。また、住宅用サッシの戸車について共通化・標準化の検討を行う。加えて、共通化・標準化された部品・部材の普及のための具体的方策等も検討し、実施していく。

以下、その概要を記載する。

1. 平成20年度事業報告(概要)

(1) 「長期使用住宅部材標準化・共通化ガイドライン」の制定

協議会の活動において、協議会の事業目的を確認・理解し、共通化・標準化の対象範囲、対象部材の選定基準等を定め、本協議会の各委員会及び各分科会の役割等を明確化するため、「長期使用住宅部材標準化・共通化ガイドライン」を平成20年11月に制定した。

(2) 住宅用共通化部品・部材の状況調査

住宅設備、住宅部材の2分野のうち、協議会会員各社が取り扱う部品・部材を対象に標準(共通)化の実態調査を行った。

その結果、共通部材の設定があるものは採用が進んでおり、各社の採用部材に標準(共通)性が無いものは、共通部材そのものの設定が無いことなどがわかつ

た。また、今後、“長期使用”の観点から重要と考えられる事項について分科会としての提言をまとめた。

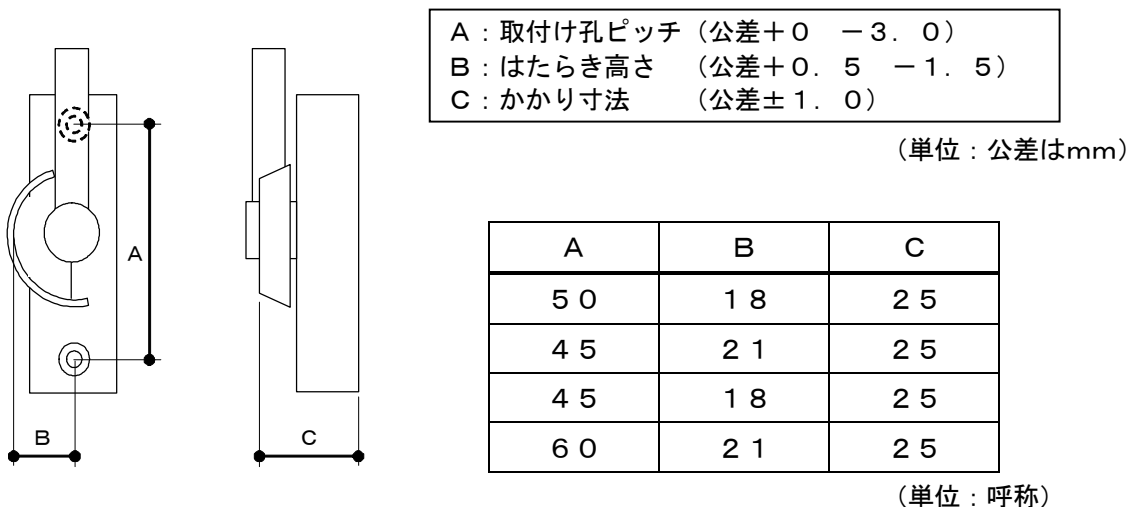
(3) 優先的に共通化・標準化を検討すべき部品・部材の候補選定

今後、協議会において優先的に共通化・標準化を検討すべき部品・部材を選定するため、経済産業省の委託事業として全国の施工事業者等を対象に行っていたアンケート調査(長期に使用する住宅に対応した部材に関する調査)と同様のものを会員住宅メーカーのメンテナンス、リフォーム担当にアンケート調査を実施し、交換・修理の頻度が高いもの、寸法の互換性で困った経験の多いものを基準に以下の7品目の部品を選定した。

- ・ 雨樋
- ・ キッチン・洗面化粧台のスライド丁番
- ・ 水栓金具
- ・ 内部建具の取手
- ・ 内部建具の丁番
- ・ 内部建具の戸車
- ・ 内部建具の錠

(4) 住宅用サッシクレセントの寸法の絞り込みとサッシ部品の実態調査

部品・部材の共通化の先事例として、会員サッシメーカーの住宅用サッシのクレセント(下図参照)の寸法の組合せについて、64もの組合せがあったものを、(社)日本サッシ協会との連携の下、会員住宅メーカーが使用しているクレセントを4つの組合せに絞り込みを行った。



また、(社)日本サッシ協会協力の下、サッシメーカーへの問い合わせが多かった部品について分析を行い、優先的に共通化・標準化を検討すべき部品として、「ドア錠」及び「サッシの戸車」を選定。「ドア錠」については関係業界との調整が必要なため、まず「サッシの戸車」の検討を進めることとした。

2. 平成21年度事業計画(概要)

(1) 共通化部品・部材の表示・普及に関する具体的検討

協議会において、共通化・標準化が検討され、具体的な寸法等が定められた部品・部材について、今後の使用を広め、普及させるための具体的方策を検討し、

実施する。

(2) ホームページの開設による普及・啓発活動

今年3月末に開設された協議会のホームページを活用し、協議会の活動方針、目的、活動実績等を普及啓発させるとともに、会員の情報共有化を推進する。

(3) 経済産業省委託事業(長期に使用する住宅に対応した部材に関する調査)結果を踏まえた共通化・標準化の検討対象の絞り込み

平成20年度に経済産業省が共通化・標準化を検討すべき部品・部材について、全国の工務店等の施工業者や流通業者を対象に広く調査を行ったアンケート調査の結果を分析し、今後、共通化・標準化を検討していく部品・部材の絞り込みを行う。

(4) 平成20年度に選定された検討対象候補の具体的検討

平成20年度の活動において、優先的に共通化・標準化を検討すべきとして選定された7つの品目について、WGを立ち上げ、関係業界との連携など具体的な検討手順等を検討する。

(5) 住宅用サッシの戸車、ドア錠の共通化・標準化検討

平成20年度の活動において、検討対象として決定した住宅用サッシの戸車について、具体的な寸法等の共通化・標準化の検討を行う。また、関係業界との調整を行いながら、クレセントの寸法の更なる絞り込みを検討するとともに、ドア錠についても具体的な寸法等の共通化・標準化の検討を行う。

以上